

お金を払っているのだから当たり前？

私は園のお泊り保育や食育教室の前に、園児たちに向けてこんなお話をさせていたでいています。

「多くの命と、皆様のお陰により、この馳走を恵まれました。深くご恩を喜び、有難く頂きます。」これは、食前の言葉です。そして、こう続けます。

「皆さんが成長するためには、魚さんや鳥さ

ん、豚さんや牛さんなどのお肉を頂かなければなりません。動物だけではなく植物だって生きています。私たちはその「命」を頂いて生きています。また、今朝いただいたごはんは、おうちの方が一生懸命作ってくれたものです。でもお米は、農家の皆さんが一生懸命育ててくれたものですし、お魚は、漁師さんが船に乗って獲っ

てきてくださったものです。また、そのお米やお魚はトラックの運転手さんが運んでくれたものかもしれません。このように、目に見えない様々な人たちのお陰によって、そのごちそうはそこにあるのです。」

飽食の時代と言われる、最近SDGs(「持続可能な開発目標」の略)の考え方から食品ロス問題などが大きく取り

上げられています。当たり前前に食事ができることが実はとても有難いのだということを、今一度お子さんと一緒に考えてみましょう。

「お金を払っているのだから当たり前？」



執筆者 諏訪 信行

学校法人慈光学園(会津若松市)理事長、一般財団法人福島県幼児教育振興財団 評議員

子育てに関するお悩み、いっしょに解決しましょう。詳しくはこちら▶

うつくしま 教育と子育ての“森”づくり

一般財団法人 福島県幼児教育振興財団

理事長 岩城 光英

事務局/福島市飯坂町平野字東原4-10 TEL024-542-9321 FAX024-542-9319

